

## 第36期救助科を実施しました

- [期間] 令和4年9月9日（金）から10月7日（金）まで  
19日間（152時間） 宿泊
- [会場] 埼玉県消防学校
- [到達目標] 救助に係る最新の専門知識及び専門的で高度な技能、技術を修得するとともに、基本活動要領を習熟することにより、救助活動及び救助訓練において自らの安全を確保できる技能を培う。また、厳しい条件下において、救助活動を遂行し得る旺盛な士気及び強健な身体を形成する。
- [教育対象] 救助業務に従事させようとする者で、初任教育修了者かつ採用後3年以上の消防経験を有する35歳以下の者
- [修了者] 27消防本部(局) 60名



確保訓練



検索救助訓練



宙吊り救助訓練



火災救助訓練



総合訓練（夜間想定訓練）



総合訓練（各種救助事象における想定訓練）



震災救助訓練



分隊活動効果確認



分隊活動効果確認



集合写真



## 修了しての感想

第36期救助科では救助活動における基礎的な知識や技術を学ぶことができ、救助歴が短い私にとって大変有意義な研修となりました。研修中は救助隊員に必要な体力や精神力を鍛えるため、様々な体力強化訓練が行われ、体力的にきつと感じる事もありましたが、教官・助教官の愛のある叱咤激励や仲間からの励ましの声のおかげで、自分の限界にチャレンジすることができました。



また、第1小隊総代を任命され、最初は不安が大きかったのですが、第2小隊総代や両副総代、更には第1小隊の各分隊長、以下小隊員全員の協力があり第1小隊を含む第36期救助科学生全員が無事研修を修了できたことを大変嬉しく思います。

第36期救助科に携わる全ての方々、快く消防学校に送り出してくれた所属の仲間、そして家族に感謝することを忘れず、救助科で培った知識・技術・体力・精神力を今後の消防人生に活かしていこうと思います。

## 後輩へのメッセージ

救助科に入校するにあたり、「訓練は上手くできるだろうか」「仲間とは仲良くやっていけるだろうか」「体力は大丈夫だろうか」など、人によっては数えきれないくらいの不安があると思います。

ですが心配はいりません。なぜならば埼玉県消防学校は教育機関であり、様々なことを失敗し、失敗したことから学ぶことができる場所だからです。

「この手技は苦手だから他の人にやらしてもらおう」「この学生は苦手だから関わらないようにしよう」「体力が持たなそうだから手を抜こう」という気持ちで訓練や学校生活を送ると、せっかくの失敗するチャンスを逃し、自身の成長につながりません。

手技が上手くできなくて恥ずかしいという気持ちは痛いほどよくわかります。ですが自身を成長させるため、市民の命を救うためだと思い、ぜひ苦手なことほど積極的にチャレンジしてみてください。

最後に、救助科で知り合う全ての人々は今後の消防人生において、大きな宝物になると思います。どうか救助科入校中にたくさんの人と話をし、絆を深めてください。

皆様の救助科での研修が有意義なものになるよう願っております。頑張ってください。

**修了しての感想**

学生60人が「和衷協同」することは容易ではありませんでしたが、訓練を重ねるごとに一体感が増し、最終日の修了式を全員で迎えられたことに安堵しています。仲間なくして救助は成り立たない事、統一事項を遵守し心を合わせる事、それが「人命救助」に繋がるのだと学びました。

訓練に専念できる環境を作り上げてくれた教官、助教官、送り出してくれた所属、家族には感謝しかありません。修得した知識、技術を最高度に発揮するとともに、旺盛な士気を絶やすことなく災害に備えていきます。

**後輩へのメッセージ**

教官、助教官の叱咤激励は強烈ですが、それに負けない「気持ち」を持って来てください。救助隊員に甘えや妥協は必要ありません。信頼し合える仲間と共に、今出せる全力を出し切ってください。怪我やコロナで訓練に参加できないほどもどかしいことはありません。ストレッチや感染対策をしっかりと行い、救助科の本質を間違えることなく走り切ってほしいと思います。私が言うのも烏滸がましいですが、皆さんの成長を期待しています。全ては助けを待つ要救助者のために。

**修了しての感想**

救助科で過ごした19日間は、技術、知識を身に着けるだけでなく、救助隊として必要な体力、精神力を鍛えることができました。厳しい訓練が続きましたが、その度に仲間と支え合い団結することで苦難を乗り越えることができました。全力で救助訓練に臨むことで、第36期救助科のスローガンである「人命救助、和衷協同」を学ぶことができました。「和衷協同」は心を同じくして共に力を合わせ、仕事や作業に当たることという意味です。最初は連携を図ることが難しく上手くいかないことも多くありました。しかし、次第に連携が図れるようになり、「絶対に助け出す」という強い気持ちが仲間から伝わってくるようになりました。この様な一体感を体験することが



できたのは、厳しい訓練環境と、教官、助教官のご指導のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

### 後輩へのメッセージ

救助科で過ごす19日間という期間は、本当にあっという間に終わってしまいます。「怪我なし、事故なし、悔いなし」で過ごせるよう全力で取り組んで下さい。精神的、肉体的に厳しい日々が続きますが、その中でこそ「たくさんの支え」の中で自分がいることに気が付くことができます。送り出していただいた所属の方々、家族、一緒に厳しい訓練を受け励まし合う仲間のことを想えば、どんな困難も乗り越えることができます。そして、その先にある達成感を味わうことができるのは、厳しい環境があるからこそだと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大に収束が見えない中、9月の残暑が厳しい気候での研修となりましたが、体調管理には十分に気を付けて、1日1日を大切に全力で訓練に励んで下さい。

**羽生市消防本部 柴崎 悠介 消防士長** \* 第2小隊副総代

### 修了しての感想

第36期救助科は「和衷協同・人命救助」のスローガンを掲げ日々の訓練に臨んできました。毎日の過酷な訓練に挫けそうになる時もありましたが、36期の仲間と支え合い助け合いながら乗り越えてきました。彼らは一生涯の大切な仲間であり、これからの私の消防人生に大きく関わるかけがえのない存在となりました。



また救助科では知識・技術の向上はもちろんのこと仲間の大切さや、救助隊員としての品位の向上など精神面の成長を感じることができました。今期もコロナウイルス感染症拡大に伴いさまざまな支障がありましたが、学生一人一人の感染防止対策の徹底だけではなく、教官・助教官のご尽力により全てのカリキュラムを実施出来ました。深く感謝致します。今後は救助科で学んだ事を所属に還元し救助を志す後輩職員に伝えていき更なる救助の発展に貢献していきたいです。

### 後輩へのメッセージ

19日間という期間は非常に短く時間はすぐに過ぎていきます。1日1日を大切に、

そして全力で取り組むことが重要です。和衷協同・人命救助という目標に向け、60人全員で心を一つにして訓練に臨んで下さい。訓練を重ねていく中でさまざまな苦難があると思いますが、必ず助けしてくれる仲間がいます。そして困っている仲間がいた時は手を差し伸べてあげてください。共に汗と涙を流した仲間は一生の宝です。そして救助科入校に伴い、沢山の人たちのお陰で訓練ができている事を忘れず最後まで全力で訓練してください。皆様のご活躍を期待しています。